

IFRS固定資産償却 シミュレーションツールのご紹介



1. はじめに ～早期の固定資産インパクト分析の重要性～

IFRSの強制適用時期は現時点では未だ決定されておませんが、一部の先行適用会社を除き多くの上場企業各社においては2015年あるいは2016年を強制適用開始時期として仮設定し、IFRSの理解および適用に関する各種情報の収集を進められている段階かと思われます。

今後はそれらの情報等をもとにIFRS適用に関する会社の取り組み方針を策定していく事が求められてきますが、その際には、IFRSで規定されている各基準について自社の業績あるいは業務にどの程度影響を与えるのかを見極め、それぞれの優先度を明確にしていくことが重要となります。

弊社では、IFRSの中でも特に固定資産は**各社業績に与える影響が大きくなる可能性が高く、また併せてIFRS導入作業自体にも非常に負荷がかかる**と認識しており、**まずは早期に固定資産の業績へのインパクトを把握することが今後の取組方針を策定する上での必須事項**と考えております。

-IFRS固定資産の特徴-

業績への影響大

固定資産は主に以下の理由から財務諸表へのインパクトが大きくなる可能性が高いと考えられます。

1. 資産のライフサイクルが長く、会計基準の差異によるインパクトが1会計期間ではなく長期間にわたる。
2. 主に製造業においては資産件数が多く、金額的なインパクトが大きい。

導入作業負荷大

固定資産IFRS導入作業には主に以下の理由から大きな負荷がかかると考えられます。

1. 有形固定資産と無形資産が対象となり資産の範囲が広い。
2. 影響を受ける会計処理の範囲が、取得・償却計算要素・取得後評価(減損・資産除去債務資産等)・開示区分など多岐にわたる。

重要

早期の固定資産インパクト分析

方針策定へ

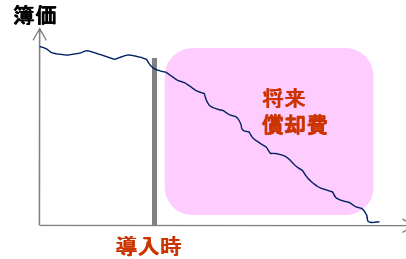
2. 償却シミュレーションの必要性

固定資産におけるIFRS導入は、取得価額自体が異なる事などによる財政状態への影響のみでなく、将来にわたり計上される償却費により、利益への影響を継続的にもたらします。したがって、IFRS導入による会社業績へのインパクトを把握するためには、IFRS基準で発生する償却費の概算値を捉えることが必要となります。

IFRS上の償却費概算額を捉えるためには、現行日本基準とは別にIFRS上で求められる各償却計算項目(IFRS上の取得価額、償却方法、耐用年数、残存価額など)を別途パラメータとして設定し、IFRSの償却計算をシミュレーションすることが必要です。

1. 将来の償却費シミュレーション

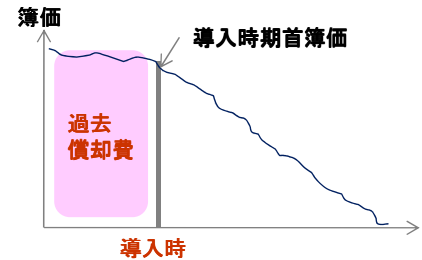
IFRS償却費のシミュレーションは、当然のことながら、現在保有している固定資産から将来発生する償却費をシミュレーションするものでなければなりません。



2. 過去の償却費シミュレーション

IFRSを適用する年度の期首簿価(厳密には比較前年度の期首簿価)は、原則的に過去の取得時点からIFRS基準を適用してきた場合に計算される簿価であることが求められ、日本基準との差異の内容を注記として開示することも求められています。すなわち、現在保有している固定資産について、過去の取得時からさかのぼってIFRS基準での償却計算をすることが必要です。

したがって、IFRS償却費のシミュレーションは、現在保有している固定資産において過去に発生したであろうIFRS償却費もシミュレーションするものでなければなりません。



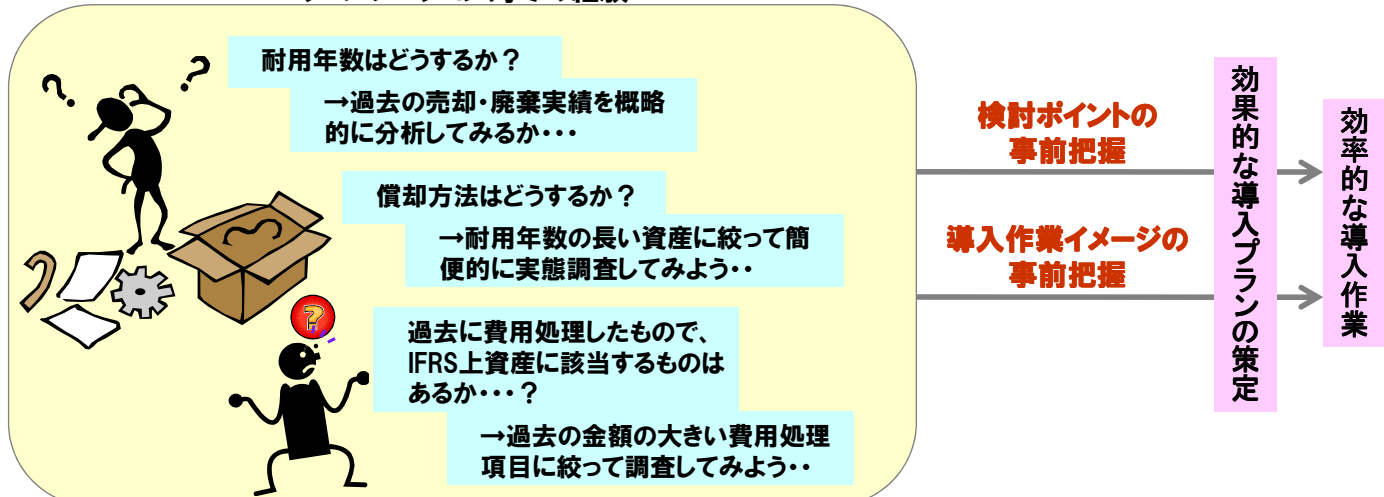
2. 償却シミュレーションの必要性

3. 導入作業自体のシミュレーション

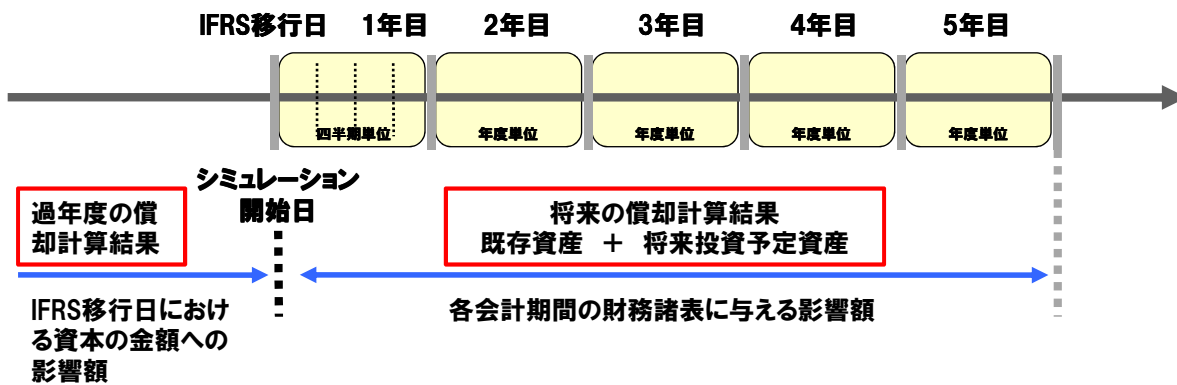
シミュレーションを行う際には、IFRS用の各種パラメータの設定を行う必要があります。パラメータとして何を設定する必要があるか、あるいは、パラメータの値を決めるためにはどのような検討が必要か、またそれを行うにはどのくらいの時間が必要か、などといった点について実際にプランニングして実行する必要があります。これらの検討項目はいずれ強制適用時には重要なタスクとなるものであり、将来の本格的な導入作業自体を身をもってシミュレーションしていることを意味します。

すなわち、強制適用時の検討・導入作業をプランニングする上で、事前の償却概算値シミュレーションは必須であると考えられます。

シミュレーション時での経験



3. IFRS償却シミュレーション シミュレーション概要



● IFRS償却シミュレーションツール主要機能

対象期間	対象資産の取得時からシミュレーション開始日までの過年度シミュレーション開始日から5年間（1年目は4半期対応）
シミュレーション設定基礎項目	償却計算基礎項目として、10項目を設定（次項参照）
対象資産	既存資産 及び 将来投資予定資産
分析項目	セグメント・部門等、任意に10項目が設定可能

4. IFRS償却シミュレーション対象項目

【IFRSシミュレーションの内容】

- 取得価額の変更(資産認識中止)
- 圧縮記帳処理の変更(日本基準の取得額に加減算)
- 付随費用の追加
- コンポーネントアプローチ(既存資産を分割した上で取り込み)
- 償却方法の変更
- 耐用年数の変更
- 残存価額の変更(定額法のみ)
- 売却目的資産登録(データ取込時に対応)
- 償却開始日変更(データ取込時に対応)
- 過去減損損失(データ取込時に対応)(注1)
- 将来投資予定資産
- 集計単位項目設定:10項目

(注1) お客様にご用意いただくデータ(例えば、減損した金額が把握できない、減損の時期が特定できない等々)によっては対応できない場合があります。

5. IFRS償却シミュレーション 計算結果出力例

資産別計算出力結果例

資産番号	資産明細番号	勘定科目	JGAAP償却方法	JGAAP耐用年数	JGAAP償却率	IFRS取得価格	IFRS残存価格	IFRS償却方法	IFRS耐用年数	IFRS償却率	売却目的資産フラグ	減損フラグ	シミュレーション開始年度	シミュレーション開始時点帳簿価格	1年目_1Q償却費	1年目_2Q償却費	1年目_3Q償却費	1年目_4Q償却費	1年目_償却費合計
210	1	器具備品	旧定率法	4	0.44	120,000	1.00	定額法	4	0.25	0	0	2011	67,500	7,500	7,500	7,500	7,500	30,000
100	1	機械装置	旧定率法	10	0.21	3,500,000	1.00	定率法	6	0.54	0	0	2011	3,070	921	921	921	307	3,069
120	1	機械装置	旧定率法	10	0.21	4,200,000	1.00	定率法	6	0.54	0	0	2011	12,426	1,665	1,665	1,665	1,665	6,660
130	1	機械装置	旧定率法	10	0.21	840,000	1.00	定率法	6	0.54	0	0	2011	5,710	765	765	765	765	3,061

Note

出力結果例は、表示しきれないため一部を抜粋しています。

償却計算は、5年目まで行います。

計算結果は、エクセルファイル(Excel2007形式)で出力されます。

株式会社クロスフィールドはビッグ4出身の公認会計士が中心となって設立された会計領域に特化したコンサルティングファームです。

IFRSに関する調査・計画立案フェーズから整備、導入、移行のすべてのフェーズに至るまで、クライアントの目線で幅広いソリューションをご提供致します。

【お問合せ先】

〒107-0061 東京都港区北青山2-12-16北青山吉川ビル5F

株式会社クロスフィールド

担当:松元良範

TEL:03(6439)9630 E-mail:contact@crossfields.co.jp